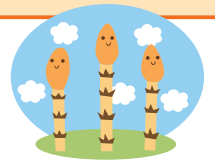


いつも笑顔で

やる気、根気、元気!



所属会派：清風クラブ  
総務経済常任委員会

この活動報告がお手元に届くころ、二期目の折り返し時期となります。

二期目は、これまで以上にさまざまなご相談をいただき、そのひとつひとつが私自身の引き出しを増やすきっかけとなっています。教育、福祉、そして環境など平塚を取り巻くさまざまな視点から、このまちを感じて行動しています。

平塚市議会で数限られた女性議員として、日々、悩み考えながら歩みを進めていますが、一人でも多くの市民が市政に関心を持っていただけるよう、身近に感じていただけるよう活動報告にまとめましたのでご一読ください。

平成28年11月25日～12月20日、12月市議会定例会が開催されました。質問時間24分の質疑応答の一部を抜粋してご報告します。ひらつか議会だより第199号（H29.2.3発行）、また、会議録と併せてご一読ください。

## ○子どもの学びの充実

**問** 小中学校の義務教育の9年間は、障がいの有無に関わらず、貴重な学びの場であり、児童生徒の将来への選択肢がひとつでも多くなることが望ましい環境であると考えます。

小学校で特別支援学級に在籍している児童が、中学校入学時には特別支援学級を選択しないことも可能なのか。また、中学校で特別支援学級に在籍した生徒はどのような進路の選択があるのか。

**教育指導担当部長** 小学校で特別支援学級に在籍する児童が、中学校で通常の学級を希望した場合、学校では保護者と十分な相談を重ねるとともに進学先の中学校とも連絡を取り合う。その後、校内教育支援委員会の審査において、通常の学級で学習していくことが望ましいと判断されれば、在籍を替えることができる。

中学校で特別支援学級に在籍している生徒の進路については、基本的には「神奈川県公立高等学校の入学者の募集及び選抜実施要領」に記載されている「志願資格」を満たしていれば誰でも受験は可能であり、学力検査や面接などの選考の結果、合格すればどの公立高校にも進学することができる。

なお現状では、特別支援学級に在籍している生徒の多くは自分の障がいの適性や能力に合わせて、それぞれの状況に応じた進路を選んでいる。主な進学先としては、特別支援学校の高等部や私立のサポート校などがあり、定時制や通信制の高校に進む生徒もいる。

次ページに続く→

## 一問一答による再質問

**問** 聞いたところによると、小学校で特別支援学級に在籍した生徒が学校側からの説明がないまま、中学校でも特別支援学級に在籍することになり、気づいたときには高校受験目前であるという事案もあったようです。それぞれの児童、生徒の課題があっても、お互いが納得して義務教育期間を積み重ねていくことが大切だと思うが、この点の見解を伺う。

**教育指導担当部長** 基本的には、本人と保護者、学校の3者が1対1でなく、それぞれ相互にコミュニケーションをとりながら教育活動を進めていくことは大変重要であると思う。議員が言う納得というところまで進めたうえで義務教育を進めていくことは重要であると認識している。

**問** 児童生徒の特性によっては、白いノートを見ると頭が痛いと感じたり、文房具にちょっとした工夫があると勉強しやすいと感じることがあるそうです。そういった児童生徒の学びづらさに対して、小中学校ではどう対応されているのか伺う。

**教育指導担当部長** 児童生徒の中には、障がいの有無にかかわらず、さまざまな場面で学びづらさを感じている場合がある。こういった相談を受けたり、教員が学びづらさに気付いた場合、例えば、集中力に課題がある生徒が在籍するクラスでは、黒板の周囲に掲示物を張らない工夫や、音に対して過敏な子どもがいる場合、椅子や机の脚に使用済みのテニスボールをはめて音が出にくくするような合理的配慮を行っている。

## ○さまざまな視点からの人権を意識したまちづくりを

**問** 12月4日から10日までは第68回人権週間であり、法務省では「みんなで築こう 人権の世紀～考えよう 相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心～」と謳って、啓発を行っている。2015年の電通ダイバーシティ・ラボの調査によると、日本でのLGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）、いわゆる性的少数者の割合は7.6%、13人に1人という結果がでている。

児童生徒の学びづらさは、ともすると「教科・学習が嫌い」と誤って判断される場合もあることから、今後、教育委員会でも合理的配慮に関する研修の機会を充実させ、すべての子ども達が安心して学べる環境をつくっていきけるよう努力していく。

## 一問一答による再質問

**問** 音に過敏な生徒への対応や、黒板の回りに物を貼らない等の対応をされているとのことだった。教育の現場がユニバーサルデザインの環境づくりをされている点は、非常にすばらしい取り組みだと思う。ひとつの学校にはいろいろな特性のある子どもが在籍しているので、是非、さまざまな生徒たちと共有され、学校の学びの充実は先生だけに頼らずに生徒も参加してやっていただきたいと思うが見解を伺う。

**教育指導担当部長** 議員の言うとおりの、今、ユニバーサルデザインが人権教育の中でも重要な視点として入ってきている。子どもたちとも意識を共有しながら授業だけでなく、食事にしても、部活動にしても、1日の活動を通してそうした視点をもって共生社会を進める主体として教育を進めていきたいと思っている。



障がいがある人もない人も、その人それぞれの選択を重ねて生きることが大切なのではないか、と私は考えています。

姉妹都市ローレンスとの交流を通して、人権施策について学ぶ点があると思うが見解を伺う。

**市民部長** ローレンス市のあるカンザス州では、平成26年10月に同性婚が合法と認められ、平成27年6月にはアメリカ全州で合法化されるなど、LGBTへの理解が進んでいるものと認識している。また、ローレンス市はかつて奴隷解放の拠点となった地であり、ローレンスという地名も奴隷解放運動の中心となって活躍した開拓者の名前からつけられ

たと聞いている。学校や商店の中にも「フリーステイト(自由の州)」という名前がついたものもたくさんある。そのような文化にふれることは、人権啓発という点からもとても重要なことと考える。

**問** パートナーシップ制度の導入は【選ばれるまち、住み続ける街】としての選択肢のひとつとなると考える。早急な検討が必要と考えるが見解を伺う。

**市民部長** パートナーシップ制度については、渋谷区が平成27年4月に条例を制定し、同年11月からパートナーシップ証明書の発行を開始して以降、世田谷区や三重県伊賀市などで、同性のカップルをパートナーとして容認する公的書類を発行していることは承知している。渋谷区等の先進自治体でも、導入時には賛否両論あり大変議論になったと伺っており、今後も、先進自治体の取組例を参考に、効果や課題なども踏まえ、研究していく。

っている。みなさんの意識改革とともにLGBTに対する配慮も意識したまちづくりが必要かと思うが市長の見解を伺う。

**市長** 議員ご指摘のように人権問題、みんなで意識していかなければいけないまちづくりの在り様だと思う。この点については、10月初旬、東海大学の学生とほっとミーティングを行った際に「シティプロモーション」がテーマだったが、学生から性的マイノリティに配慮した対策をすることが平塚市のまちづくりであり、行政が多様性に配慮していかなければいけない。それをすることで平塚市も【選ばれるまち、住み続けるまち】にもなるのではないかという提案もいただき、これだけ身近になってきたという事を初めて感じた。そういうことからLGBTを身近な問題と捉えて人権対策、問題として取り組んでいくべきで、庁内もそういう視点を持ってまちづくりに取り組んでいきたいと思っている。



生まれてきた命を大切に、多様な生き方を「私たち社会」が認めていくことは喫緊の課題です。

## 一問一答による再質問

**問** パートナーシップ制度の導入は今の平塚市の現状では導入は難しいかと思うが、【選ばれるまち、住み続けるまち】を前に進めるのは平塚市の総合計画があってこそだと考える。この総合計画にはここにいる部長のみなさんそれぞれが関わ

## ○ 外国籍住民の地域での活躍の場づくり

**問** 本市の外国籍住民は行政概要より、平成26年版4001人、4107人（H27）、平成28年版4318人と増える傾向にある。また市内の様々な地域を巡り、住民の中にはルーツは外国にあっても国籍は日本という家庭が存在することを私自身も知りました。

高齢化社会の中で地域を担う人材も、人口ピラミッド同様に先細りになっています。また、頻繁に国内各地で起こる地震の発生状況から、国籍を問わず、住民が繋がっていることは日常生活の上でも重要であると考えます。外国籍、外国にルーツを持つ市民でも担える地域活動、例えば自治会、交通安全協会、消防分団等の受け皿を明確にして、地域での参加を後押ししていく必要があると考えるが見解を伺う。

**市民部長** 外国籍住民の方々も、互いに協力し支え合う地域の一員として、自治会をはじめ交通安全協会、消防分団等、地域を支えるさまざまな団体に参加していただくよう後押しをしていくことは、人口減少社会により地域を担う人材が減少していく中で必要性を認識している。

例えば、自治会については、外国籍住民が既に役員や会員として活動に参加している地域もあるので、今後も外国籍住民の自治会活動への参加が更に進むよう、平塚市自治会連絡協議会と話し合いを行っていく。

また、FM湘南ナパサの多言語による生活情報番組「インターナショナル・ナパサ」で地域活動に関するさまざまな情報提供を行うなど、引き続きいろいろな機会をとらえ、外国籍住民の地域活動への参加が進むよう努めていく。



## 【第10回ジョージタウン大学日米リーダーシッププログラム】

2016年10月16～23日、ジョージタウン大学日米リーダーシッププログラムに参加し、米国大統領選挙直前のワシントンDCとミシガン州グランドラピッドを訪ねました。共和党員も含めて出会った多くの人たちがH・クリントン政権になったら…、と語っていたのに、現実には共和党候補・トランプ氏が次期大統領に選ばれました。アメリカの選挙人制度の在り方に日本国民も疑問を抱いたのではないのでしょうか？

大統領選挙、アメリカの連邦主義、安全保障から政治家に求められる姿勢など多岐に渡る講義内容でした。下記はMr.Sam Potolicchioによる講義メモをご紹介します。

### ◎選挙に際し、有権者が何を考えているのか？

- 1) 誰が仕事をしてくれるか？
- 2) 誰が私を理解してくれるか？  
日々の国民の努力を誰が・どの候補者が分かってくれるか？
- 3) 誰を夕食に招待したいか？=信頼できるか？

※有権者は頭でなく、心で動いているのではないか。

- ⇒政策理念よりも説明責任をどう努めるか？  
が、有権者から求められている。
- ⇒有権者に真摯に向き合う。メディアだけに頼る必要がなくなった。

### ◎グローバルリーダーシップとは？

- ・リーダーに求められるもの：仕事ができる、正直である、信頼できる
- ・leaderなのか？、communicatorなのか？
- ・「あなたは誰とビールを飲みたいか？」で、高支持率を得た人が大統領選に勝ってきた現実がある。
- ・カリスマ性(目立つ、卓越的)、且つ、**強さと温かさを兼ね備えていること**＝信頼できる
- ・コミュニケーションの場にいる観客の存在が大切である。聴衆がいることを忘れてはならない。
- ・等身大で自分を見せることが大切である。
- ・有能と信頼性
- ・相手を受け入れ、認めること
- ・公人としての心得:相手も自分も緊張が軽減される、心地よくなる方法を見出す。

※有権者として、或るいは将来の有権者として、みなさんはどのように感じるでしょうか？日米リーダーシッププログラムについてはブログで掲載しています。



Mr.Victor Chaの講義「アジアにおける安全対策」

## 議員活動報告会を開催します

4月16日(日) 15:30～17:00 八幡自治会館ホール

※日程の変更があるかもしれませんので、ブログまたはホームページでご確認ください。



## 最後に



平塚市余熱利用施設・リフレッシュプラザ平塚が3月19日に大神地区に開設されます。小さなお子さんから高齢の方まで広くご利用いただける施設です。

とてもアナログな佐藤たかこが、ブログやホームページを展開しています。

「佐藤たかこ 平塚」で検索し、是非、ご覧ください！

佐藤たかこ 平塚

検索



ご意見・ご質問、応援メッセージは、E-mail : takatan.kike@md.scn-net.ne.jp  
又はファックス 0463-21-7600 にてお知らせください。